

【接種前に必ずお読みください】

高齢者の肺炎球菌感染症と予防接種

1 肺炎球菌感染症とは

肺炎球菌感染症とは、肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気です。この菌は、主に気道の分泌物に含まれ、咳やくしゃみなどを通じて飛沫感染します。日本人の約5～10%の高齢者では鼻や喉の奥に菌が常在しているとされます。これらの菌が増殖し、下気道や血流中へ侵入することで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすことがあります。

2 沈降 20 価肺炎球菌結合型ワクチン (PCV20) の効果

肺炎球菌には、100種類以上の血清型があり、定期接種で使用されるワクチン(PCV20)は、そのうち20種類の血清型を対象としたワクチンであり、この20種類の血清型は、成人侵襲性肺炎球菌感染症(※)の原因の約5～6割を占めるという研究結果があります。

また、このワクチンは、血清型によらない侵襲性肺炎球菌感染症全体の3～4割程度を予防する効果があるという研究結果があります。

※侵襲性感染症とは、本来は菌が存在しない血液、髄液、関節液などから菌が検出される感染症のことをいいます。

3 ワクチン(PCV20)を接種できない方、接種に注意が必要な方

ワクチン(PCV20)の成分やジフテリアトキソイドによって、アナフィラキシーを呈したことが明らかな方、明らかな発熱(37.5℃以上)を呈している方、重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方、また予防接種を行うことが不適切な状態にある方等は接種できません。

また、免疫不全と診断されている方や、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方、心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する方、予防接種を受けて2日以内に発熱や全身性発疹などのアレルギーを疑う症状を呈したことがある方、過去にけいれんを起こしたことがある方、ワクチン(PCV20)の成分やジフテリアトキソイドに対してアレルギーを呈するおそれのある方、血小板減少症、凝固障害、抗凝固療法を受けている方は接種に注意が必要です。

裏面もごらんください→

4 ワクチン(PCV20)の安全性

ワクチン接種後に以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、ショック・アナフィラキシー、けいれん（熱性けいれん含む）、血小板減少性紫斑病がみられることがあります。

接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

発現割合	主な副反応
30%以上	疼痛・圧痛（59.6%）、筋肉痛（38.2%）、疲労（30.3%）
10%以上	頭痛（21.7%）、関節痛（11.6%）
1%以上	紅斑、腫脹（接種部位の赤みやはれ）

5 接種を受けた後の注意点

ワクチンの接種後 30 分程度は、安静にしてください。また、体調に異常を感じた場合には速やかに医師へ連絡してください。

注射した部分は清潔に保つようにしてください。接種当日の入浴は問題ありません。当日の激しい運動は控えるようにしてください。

6 予防接種健康被害救済制度について

予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、健康被害（病気になったり、障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすことはできないことから、救済制度が設けられています。

制度の利用を申し込む時は、ご相談ください。

【問合せ先】

射水市健康推進課

電話 0766-52-7070

射水市中村 38 番地(保健センター内)